



「高齡社」社長

むらぜき 村関 不三夫さん(66)

「ひととは『元気だから働く』のではなく、『働くから元気になる』んです。今後ますます高齢化が進む日本社会で大切なのは『働いて元気になろう。明るく楽しく前向きに生きよう!』というメッセージ。頭文字を略して『ハゲアタマ』です(笑)」。そう言って頭をなでながら豪快に笑うのは村関不三夫さん。日本ガス協会業務部長、東京ガスリキッドホールディングス社長、ガスター会長などを歴任した後、昨年4月から高齢者専門の人材派遣会社「高齡社」の社長を務めている。

## 高齡社会は「ハゲアタマ」

足と社会の労働力不足の解消に寄与し、高齢者に働く場と生きがいを提供することを経営方針として、2000年に立ち上げた会社だ。株主よりも、顧客よりも、社員を大切にする「人本主義」を掲げている。派遣業務の6割は、マンシヨンの内覧会で給湯暖房システムの使い方を説明する業務など東京ガス関係だが、その他企業の営業補助業務なども4割を占める。

「少子高齢化が進む中、日本では労働力不足が懸念されています。この問題に対する一つの答えが、シニア派遣事業。当社で活躍するシニアの皆さんは、知力・体力・気力とも充実しており、仕事に対する姿勢も真摯で前向き。お客さまと同僚に信頼され、若い人の見本になるような人ばかりです」

高齢者が働くことは若手ともウィンウィンになると語る。

「若い人たちにとって土日祝日の勤務は避けたいものですが『毎日か日曜日』のシニアには『平日料金で安くゴルフに行け

る土日勤務は大歓迎』という人が多い。若い人が敬遠する早朝の業務も、シニアには歓迎される。仕事を分け合えば、みんなが幸せになれる」

一つの仕事を二人以上で分け合う「ワークシェアリング」を行うことで、社員のワークライフバランスと派遣先企業の安心感を確保している。

「男性は『仕事をせずに家にいると奥さんにいい顔をされないので、年金はあるけれど、週3〜4日働いて、孫に上げる小遣いくらい稼げれば』という人が多い。女性に多いのは『趣味のお金のために働きたい』という人。卓球のマスターズの選手が『自分にコーチを雇うために』働いているという例もあります」

約千人の登録社員の平均年齢は71歳。実際に派遣先で働いている最高齢は82歳だという。

「この会社では66歳の私はまだまだ若手(笑)。社員の皆さんの充実した老後のために、私も自身も健康に気を付けながら頑張りたい」 (片山 浩樹)